「障害をもつ」と「障害の（が）ある」の表記について

先に「障害をもつ人たち」、「障害の（が）ある人たち」、の表記についてメールでアドバイスを求めたましたところ、多くの方々からたくさんの情報をいただきました。

大部分は、「よく分からない。他に当たってみるから……。」という方々でした。また、「このレベルのくだらないことをしているから駄目なのですよね。」と叱責してくださる方もいました。つまり、表記を変えるだけでは、ことの本質の解決にはならないぞ！とのご指摘だと思います。

「政府としては『障害者』を公式用語としているので、これはそのまま使用するものの、その対比表現としての『健常者』は用いないということでした。また、お尋ねの件で、『障害をもつ人・もたない人』については、『持つ・持たない』という能動的な意志を示す言葉は使わず、『ある人・ない人』の方が適切という見解から、障害者白書等ではいずれも『障害のある人・障害のない人』という表現を使っているそうです。」との情報もいただきました。

一方、「『弱者の哲学』の本の中で、著者は『障害をもつ』という表現をあえて使い、『もつ』という表現を用いる意義を述べているとのことです。」との情報もいただきました。どちらの表記を使うかは、要は使う人のスタンスが関係してくると思いますので、どちらにすべきというつもりはありません。

アドバイスの数々はまとめてありますので、自分のスタンスを思考する参考にしたいと思われる方は、連絡をくだされば メールで添付・送信いたします。

なお、「『の』と『が』の違いによる意味の相違については、文脈の中での主体のウェイトによって使い分ける。」とのアドバイスもいただきました。

情報をお寄せくださいました方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

（2002 年 05 月 09 日　記）